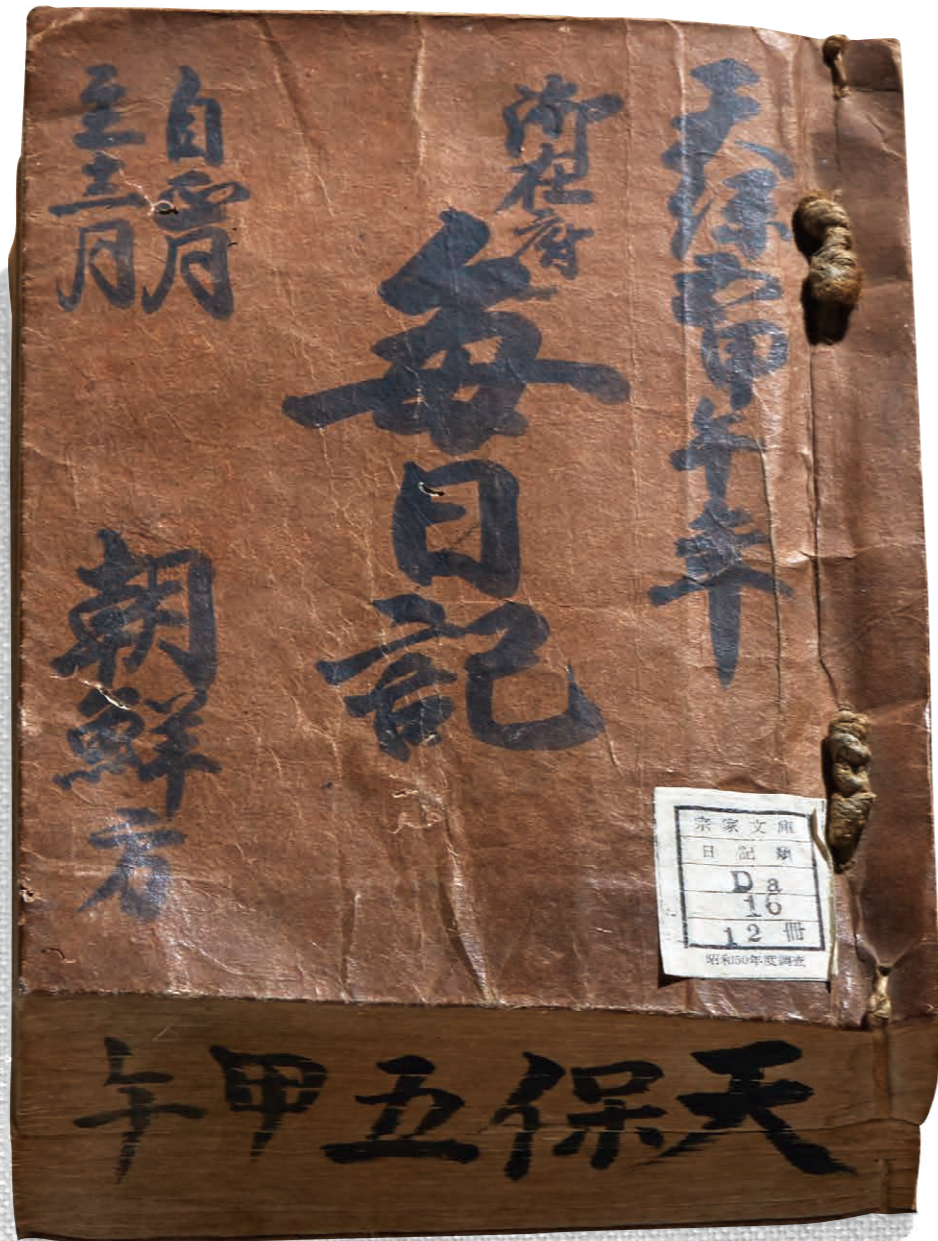
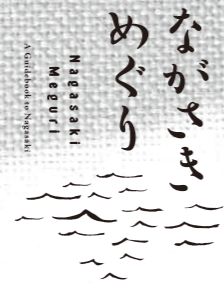


長崎の歴史は、海外との交流にあり。

日本の西端に位置する長崎県は、古代から日本と大陸の架け橋でした。そして江戸時代には、日本で唯一西洋に開かれた窓口として、異国の文化を受け入れながら、多くの人と交流し栄えてきました。今でも県内各地には、その交流の歴史を物語る文化財などが数多く残されています。



The History of Nagasaki ① Cultural Exchange



●寛永年間(1624-1644)から幕末までの約240年間にわたり、朝鮮と日本を結んだ対馬藩・宗家の藩政史料、江戸時代の朝鮮と日本の外交の記録である文庫史料の数は、約8万点にも及びます(長崎県対馬歴史研究センター 蔵)

朝鮮半島との交流

長崎県の西に浮かぶ島、壱岐・対馬。古代から朝鮮半島との交流が盛んで、大陸の文化や技術が日本に伝える中継地でした。壱岐の「原の辻遺跡」は、中国の歴史書『魏志倭人伝』に登場する一支国の王都で、弥生時代(紀元前300年頃～紀元300年頃)の環壕集落の遺跡です。日本最古の船着き場跡をはじめ、大陸との交流が盛んであったことを物語る多くの資料が発掘されています。また、朝鮮半島とわずか50kmの距離にある国境の島・対馬では、豊臣秀吉の朝鮮出兵によって中断していた朝鮮通信使を対馬藩の宗氏が再開させる契機をつくり、江戸往復護衛の任にあたるなど、日朝外交を事実上一手に担っていました。



1

長崎のまちには中国文化の香り

600年頃から大陸の進んだ文化を学ぶために日本から派遣された遣隋使や遣唐使は、壱岐・対馬や五島を経由し、中国へと渡りました。また鎌倉時代の終わり頃には、中国(元)の軍勢が大挙して攻め入った蒙古襲来(元寇)があり、「神風」といわれる暴風雨によって沈没した多くの軍船が、松浦市鷹島海底遺跡などにその歴史的な痕跡として数多く残っています。江戸時代になると、中国との貿易は一段と盛んになりました。また、貿易による文物だけでなく、教養文化を身につけた中国人の渡来によって、建築技術や画法、食文化なども伝えられました。国宝の建造物を擁する崇福寺など黄檗宗の寺院をはじめ、わが国最古のアーチ型石橋である眼鏡橋、国内唯一の華僑が手がけた孔子廟など、長崎のまちなかには各所に中国の文化が見られます。ペーロンや精霊流しなどの伝統行事からも、中国との深いつながりが身近に感じられます。



3 原の辻遺跡の西側で発掘された船着き場跡を模型で再現。実物は発掘調査終了後、保存のため埋め戻されています(壱岐市) 2 日本で唯一発見されている原の辻遺跡の面人石。弥生時代、豊饒などを願うときに使用された祖霊像と考えられています(壱岐市立一支国博物館 蔵) 3 朝鮮通信使のはじまりは室町時代(1336-1573年)。一度は途絶えましたが江戸時代(1603-1867年)に再開し、その後約200年の間に総勢300人を超える使節団が12回にわたって来日しました(長崎県対馬歴史研究センター 蔵)



4 元寇/戦いの最前線だった対馬や壱岐、鷹島などは激戦地となり、多くの島民が犠牲となりました(九州大学附属図書館 蔵) 5 眼鏡橋/日本初のアーチ式石橋で「日本橋」「錦帯橋」と並ぶ日本三名橋の一つ。川面に映った影が双円を描き、「眼鏡」に見ることが名前の由来だといわれています(長崎市) 6 孔子廟/原爆の被害にあいましたが、戦後改修を重ね1967年に再建。さらに1983年には中国政府の協力により、石像などが運ばれ改装されました(長崎市) 7 崇福寺/1629(寛永6)年に長崎在住の中国福建省の人々により建立。長崎にある三つの国宝うち、二つがこの崇福寺にあります(長崎市)



2

5

6

7

